

日本動物行動学会
第24回大会
プログラム

2005年11月25日(金)～27日(日)
国際基督教大学

共催：国際基督教大学教養学部理学科

大会案内

♪受付

受付は、25日は12時から、26日及び27日は8時30分から行います。受付場所は理学館2階です。当日参加、及び参加費未納の方は受付でお支払いください（学生4500円、一般5500円）。

♪公開シンポジウム

26日14時～16時に「行動生態学における候補遺伝子の活用」を行います（入場無料）。

♪一般講演

♪ポスター発表

ポスター掲示用のパネルサイズは高さ180cm、幅120cmになります。発表形式は自由ですが、パネルの大きさに収まるように準備をお願いします。ただし、パネル左上部にはポスター番号を表示しますので（縦20cm×横30cm）、そのスペースはあけるようお願いします。

また、ポスター発表は25日午後～26日午前、及び26日午後～27日午前の2セッションに分けて行う予定です。26日の12時から13時の間に入れ替えとなりますのでご了承ください。

本部で用紙を準備しますので、説明可能な時間の表示をお願いします。

♪ビデオ発表

ビデオ発表は、行動の映像を発表する事を主眼として準備してください。機材は、S-VHS、ベータ、Hi8、miniDVの各テープ、DVDに対応致します。DVDを利用される方は、ディスクのファイルサイズを忘れないようお願いします。そうでないと再生が出来ません。また、Apple Keynote および MicroSoft PowerPoint をインストールしたマッキントッシュコンピュータ（iMac G5 もしくは iBook G4 を予定）、及び Windows NT を搭載し MicroSoft PowerPoint をインストールした NEC コンピュータを準備致します。ノートパソコンの持ち込みを希望される方はご利用機種と動作環境、使用ソフト名を事前に事務局までご連絡下さい。また当日は不測の事態に対処するためフラッシュメモリやCD-R等のファイルバックアップをお持ちください。

講演に利用するメディア（テープ・DVD・CD-R、など）は、可能な限り前日までに大会本部までお持ちください。講演当日に参加する方は、講演開始30分前までに各種メディアを会場入り口の受付までお持ちください。PCを持ち込まれる方は、講演開始30分前までにPCを起動して会場受付までお持ちください。

各講演者の方は、前の講演が始まりましたら会場最前列の「次講演者席」にお越しください。

司会は、最初の講演のみ大会本部で行います。2番目以降の講演では、前講演の演者が司会を行ってください。

♪懇親会

26日17時30分より、大学食堂にて行います。当日参加も受け付けます。

♪休憩室・展示室・クローク

休憩室はN-232教室及びN-332教室になります。休憩室ではお茶の用意を致します。また、N-331教室では書籍の展示販売と機器展示を行います。利用時間は25日は13時より17時まで、26日は9時より17時まで、27日は9時より12時までとなります。

本大会ではクロークは準備しません。休憩室の一角に荷物置き場を用意しますので、そちらを御利用下さい。特に要員を配置する事は致しませんので貴重品の管理にはお気をつけください。

♪ 昼食

大会本部での弁当の販売は行いません。また、大学近辺には飲食可能な場所が少なく、あっても徒歩でかなりの時間がかかりますので、大学食堂の利用をおすすめします。大学食堂の会期中の営業時間は、25日が11:30より19:00まで、26、27日が11:30より16:00までとなります。

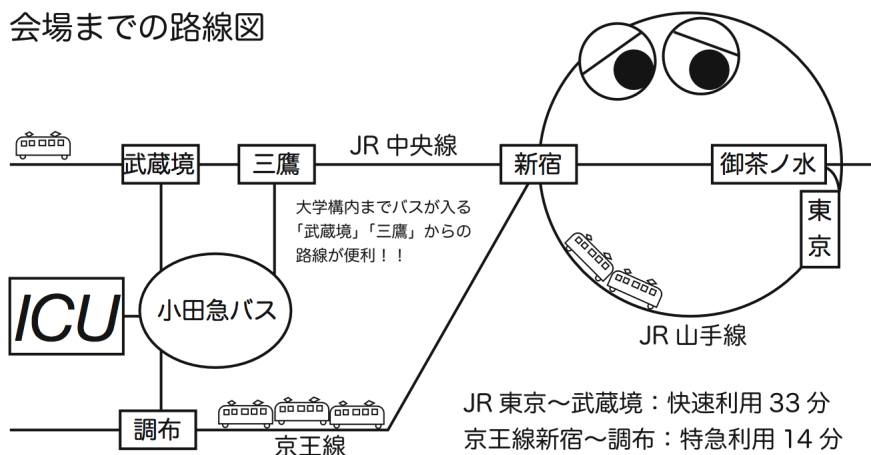
♪ 喫煙

学内は指定場所を除き禁煙となります。歩行中の喫煙も御遠慮下さい。理学館内では2階に喫煙所がございます。また、懇親会会場でもある大学食堂は、建物の内外ともに禁煙となります。御協力をお願いします。

会場案内

♪ 会場：国際基督教大学理学館（東京都三鷹市大沢 3-10-2）

会場までの路線図



♪ JR 中央線武蔵境駅南口から

「国際基督教大学」行終点下車（乗車時間約 12 分、大学構内まで入構）→徒歩約 7 分
「狛江営業所」行または「吉祥寺駅」行乗車、「富士重工前」下車（乗車時間約 10 分）→徒歩約 12 分

♪ JR 中央線三鷹駅南口から

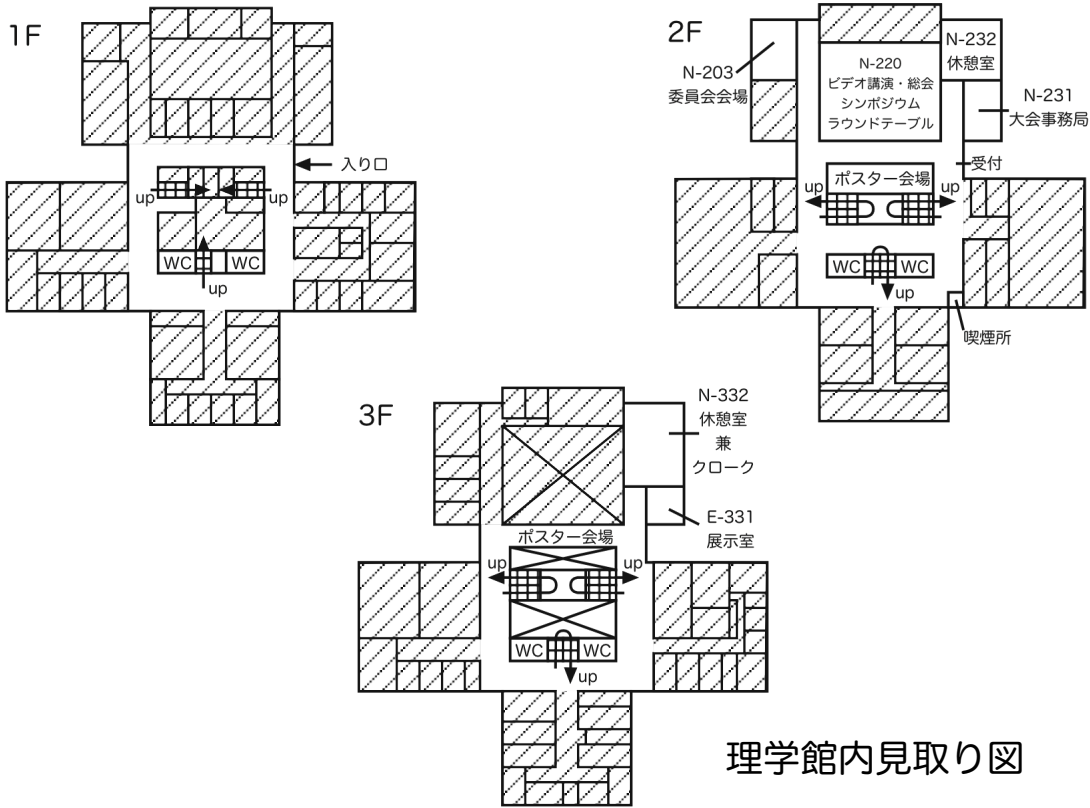
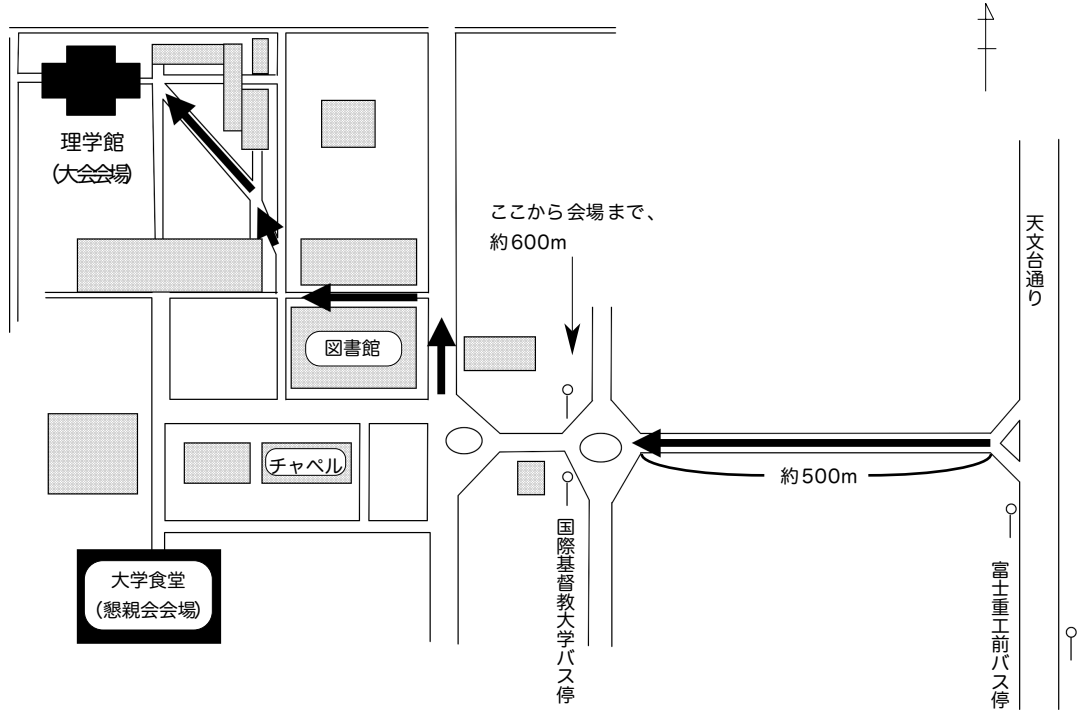
「国際基督教大学」行終点下車（乗車時間約 20 分、大学構内まで入構）→徒歩約 7 分
「武蔵小金井駅」行または「西野御塔坂下経由調布駅」行乗車、「富士重工前」下車（乗車時間約 20 分）→徒歩約 12 分

♪ 京王線調布駅北口から

「武蔵境駅南口」行または「西野御塔坂下経由三鷹駅」行乗車、「富士重工前」下車（乗車時間約 20 分）→徒歩約 12 分

♪ お車でのご来場は御遠慮下さい。

学内マップ



理学館内見取り図

大会スケジュール

	11月25日 (金)	11月26日 (土)	11月27日 (日)
9:00			
10:00		ポスターセッション (前半) 900-1200	ポスターセッション (後半) 900-1200
11:00			
12:00			
13:00		ポスター入れ替え	
14:00			
15:00	ポスターセッション (前半) 1300-1700	ポスターセッション (後半) 1300-1700	ラウンドテーブル N-220 教室 1300-1500
16:00			
17:00			
18:00	ラウンドテーブル N-220 教室 1700-1900		
19:00			
20:00			

公開シンポジウム
行動生態学における候補遺伝子の活用
11月26日(土) 14:00-16:00
N-220 教室

行動形質の発現機構や、その形質が進化した過程を理解する上で、遺伝的基盤の解明は欠かせません。そのため近年日本でも、行動-生活史形質を対象に量的遺伝学的な解析が、様々な分類群で盛んに行われるようになりました。この際、モデル生物で注目する行動形質の遺伝子が特定されている場合、野生動物で遺伝子を探索する際に有用な候補遺伝子として利用できます。実際に、ショウジョウバエで foraging に影響する遺伝子として発見された PKG と相同な遺伝子は、ミツバチや線虫でも foraging に関する役割を担っていました。そこで、本シンポジウムでは、行動生態学における候補遺伝子の活用の現状と展望を探るべく、行動遺伝の専門家をお招きしてお話を伺うことにしました。

講演

1：高橋亮・榎藤洋一 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター個体遺伝情報研究チーム

「モデル動物を用いた行動形質の遺伝解析とその野生集団への援用」

2：藤原 学 九州大学 大学院理学研究院生物科学部門分子遺伝学研究室

「個体の運動パターンをコントロールする cGMP 依存性タンパク質キナーゼの働き—線虫 C.エレガンスを使った分子遺伝学的アプローチ—」

司会：廣田忠雄（国際基督教大学教養学部理学科生物学教室）

コメンテーター：宮竹貴久（岡山大学大学院環境学研究科環境生態学講座）

ラウンドテーブル
N-220 教室

R-1

11月25日(金) 17:00-19:00

加速度のマイクロ計測による動物行動研究：その成果と将来の課題

オーガナイザー：綿貫豊・田中秀二（北大水産）

R-2

11月27日(日) 13:00-15:00

科学はどこまで普及できるのか？—科学とメディアと大衆と

オーガナイザー：佐倉統（東京大学）、岡ノ谷一夫（理化学研究所）

ポスターセッション

11月25日(金) 13:00-17:00

11月26日(土) 9:00-17:00 (12:00-13:00 入れ替え)

11月27日(日) 9:00-12:00

前半 (25 日午後～26 日午前)

- P1-1 タコは単独性か? ～熱帯性タコ類の空間分布パターン
○金子 奈都美 (琉球大院・理工) 池田 讓 (琉球大・理)
- P1-2 シロウミウシ属の配偶行動の比較
○松井綾香 (琉大・理工)、中嶋康裕 (日大・経済)、関さと子 (琉大・理工)
- P1-3 孤独なイカの立居振る舞い: 自己鏡映像反応から見たアオリイカの社会性
○池田 讓・難羽ちひろ (琉球大・理)
- P1-4 ウニ (放射相称) はどちらに進むか? - 進行方向と歩帯位置の対応関係 -
○吉村和也 (東工大・生命理工) 本川達雄 (東工大・生命理工)
- P1-5 ハグロトンボ雄の栄養状態は飛翔パフォーマンスに反映される
○松原和也 (佐賀大・農)・鈴木信彦 (佐賀大・農)
- P1-6 産卵後に山登りするノシメトンボの雌における卵生産
○諏佐晃一・渡辺 守 (筑波大・環境科学)
- P1-7 脱糞量を利用したトンボ類の摂食量推定
保崎有香 (早稲田大・教育)・椿 宜高 (国環研・生物)
- P1-8 オオカワトンボの求愛ディスプレイと female choice
○山肩重夫 (東大・院・農学生命) 椿 宜高 (国立環境研究所・生物多様性)
- P1-9 オオカワトンボのリフティングパワー: 体温、飛翔筋量、脂肪貯蔵量の影響
○鮫島由佳 21・椿宜高 12 (1.国立環境研究所・生物多様性 P 2.東大・農)
- P1-10 メスの貯蔵精子量は多回交尾の指標となるか?
○中原美理 (東大院・農学生命) 椿宜高 (国立環境研究所)
- P1-11 交尾時刻が異なるウリミバエ 2 系統の時計遺伝子 period と doubletime の配列比較
○大田由衣 (岡山大院・自然科学)・松本顕 (九州大高等教育セ)・谷村禎一 (九州大院・理)・松山隆志 (沖縄農試)・宮竹貴久 (岡山大院・環境)
- P1-12 ヒメクサカゲロウ属 (Chrysoperla) の種/異性認識における触角の役割
○中 秀司 (農環研・導入昆虫)、春山直人 (千葉大園芸・昆虫)、野村昌史 (千葉大園芸・昆虫)、望月 淳 (農環研・導入昆虫)
- P1-13 トビロシワアリのテリトリー防衛と巣穴の空間構造
真田幸代 (岡山大大学院・環境・進化生態)
- P1-14 トビロシワアリに見られる近親交配が新女王の繁殖形質に及ぼす影響
○松原由加里 (岡山大院・自然) 真田幸代 (岡山大院・環境)
- P1-15 分散距離の性差の進化 Episode 2: 解決編
廣田忠雄 (ICU・理)
- P1-16 カマキリにも不味いチョウがいる
○辻本始 浦崇 日比伸子 木村史明 島田正吾 中谷康弘 (榎原市昆虫館)
- P1-17 ダイミョウセセリ幼虫のシェルター形成行動
○加藤義臣・小島直樹・廣木眞達 (国際基督教大生物)
- P1-18 ヤマトシジミ雌の雄の色彩への反応
今福道夫 (京大・理・動物)
- P1-19 モンシロチョウの雌探索行動における個体差
○村上佐和子 (東京農工大学・農) 廣田忠雄 (東京農工大学・農) 小原嘉明 (東京農工大学・農)
- P1-20 寄生バチ Melittobia の性比は産卵時から極端に雌に偏っているのか?
○安部 淳 (東大・広域システム・生物)、上村佳孝 (北大・農・動物生態)、嶋田正和 (東大・広域システム・生物)
- P1-21 異種間交尾を行ったマルハナバチのリスク評価～雑種個体は生まれるのか?
神戸裕哉 (アビ株) 岡田育子 (岐阜大) 米田昌浩 (アビ株) 五箇公一 (環境研) ○土田浩治 (岐阜大学)
- P1-22 寄生蜂によるギルド内捕食の回避: 化学的機構と野外での評価
○仲島義貴 (帯畜大・昆虫)・Michael Birket・Wilf Powell (Rothamsted Research)
- P1-23 マルハナバチの餌選択における他個体の情報的影響～悩むより做うが易し?
○川口利奈 (筑波大・生命環境科学) 大橋一晴

- (筑波大・生命環境科学) 徳永幸彦(筑波大・生命環境科学)
- P1-24 動物性の餌はフタモンアシナガバチ女王の産卵数を増加させる
宮野伸也(千葉県立中央博物館)
- P1-25 繰り返し囚人のジレンマ状況下での協力的性の進化
○上村佳孝(北大・農・動物生態)・安部淳(東大・広域システム・生物)・伊藤洋(東大・広域システム・生物)
- P1-26 2個体間の順位行動のデータ解析: データが多くないとき
粕谷英一(九大・理・生物)
- P1-27 ニホンザルにおける発声の柔軟性: 相手の状態に応じた調節
○山口智恵子(京都大・霊長類研究所)・泉明宏(国立精神・神経センター)
- P1-28 さるだんごの形は4個体ではどうなるか
小川秀司(中京大学・教養)
- P1-29 霊長類の毛づくろい行動のかき分け速度と外部寄生虫除去効率
座馬耕一郎(京都大・霊長研)
- P1-30 性的指向と顔の魅力選好
○酒井嘉子(立教大院・生命理学) 坂口菊恵(東大院・総合文化) 上田恵介(立教大・理学) 長谷川寿一(東大院・総合文化) 長坂尚登(東大・教養)
- P1-31 ボルネオ島ダヌムパレーにおける野生オランウータンの社会行動における研究
○金森朝子(東工大・生命理工) Dr. Henry Bernard (Institute for Tropical Biology and Conservation University Malaysia Sabah) Mr. Titol Peter Malim (Sabah Wildlife Department) 幸島司郎(東工大・生命理工)
- P1-32 ソナグラムを用いたトド(Eumetopias jubatus)の鳴音の個体群間比較
○朴 太健・飯田浩二・向井 徹・小谷昇司(北大院・水産・音響資源計測)
- P1-33 アジアゾウ低周波音コミュニケーションの野外録音
○角(本田) 恵理(東大院・総合文化) 末續野百合(環境省・国立公園課) 齋藤慈子(国立精神・神経センター 神経研究所) 入江尚子(東大院・人文) 長谷川寿一(東大院・総合文化)
- P1-34 ノネコのメスにおける発情の同調性と行動圏の重複
○布施名利子(九州大学・生物) 粕谷英一(生物)
- P1-35 イヌの「気質(遺伝的行動傾向)」を調べる行動テストは可能か
○鈴木美由紀(帝京科学大・アニマル) 前島雅美(岐阜大・応用生物、(株)TCPL) 藤田賢志(帝京科学大・アニマル) 村山美穂(岐阜大・応用生物) 藪田慎司(帝京科学大・アニマル)
- P1-36 アカネズミとオニグルミ種子: 採餌行動の個体差
○武智玲奈(早大・教育・生物) 田村典子(森林総研・多摩森林科学園) 林 文男(都立大・理)
- P1-37 右巻きのヘビ: セガカヘビ類による右巻きカタツムリ捕食への適応
○細将貴(京大・理・動物), 浅見崇比呂(信州大・理・進化生物), 堀道雄(京大・理・動物)
- P1-38 なぜイサザのオスは体が大きなメスを好むのか?
○森本陽(京都大・文)・高畑美寿樹・幸田正典(大阪市立大・理)
- P1-39 協同繁殖するカワスズメ科魚類の精子競争と性ホルモン
○安房田智司(琉大院・理工・COE)・三浦さおり(琉大院・理工)・武山智博(京大院・理)・牧野良美・北村夕子・富田直樹・幸田正典(大阪大院・理)
- P1-40 ウグイの産卵環境の好適性と産卵床の選択
○白鳥幸徳(宮城教育大) 山口元吉(中央水研) 生田和正(中央水研) 村上真裕美(中央水研) 箱山 洋(中央水研・東京海洋大)
- P1-41 ミツボシキウセンの性転換過程における性行動と体色変化
○内川侑子(日大・生物資源) 桑村哲生(中京大・教養) 中嶋康裕(日大・経済)
- P1-42 ナンヨウミドリハゼにおける♂間相互作用と成長の関係
○関家友子(大阪市大・院理・生物), 狩野賢司(東京学芸大・生物), 幸田正典(大阪市大・院理・生物)
- P1-43 ハゼ科魚類トウヨシノボリにおけるメスの婚色の進化
○中江環(愛媛大・院・理工) 奥田昇(京大・生態研センター) 伊藤明(愛媛大・沿岸環境科学センター) 柳澤康信(愛媛大・理)
- P1-44 ヒメダカの社会関係に及ぼす脳内アルギニンバソトシンの影響
○加川尚, 山田倫子, 大山力(近畿大・理工・生命)
- P1-45 底質ハビタートの複雑性と渓流性淡水魚カジカ(Cottus pollux)の摂餌場所利用との関係
栗田孝晴(山梨学院大・商・非常勤)
- P1-46 ミツボシキウセンのTP雄の代替繁殖戦略: ペア産卵か, グループ産卵か
○鈴木祥平(大阪市立大・理) 桑村哲生(中京

- 大・教養) 幸田正典 (大阪市立大・理)
- P1-47 サンゴ礁魚類ミツボシキウセンにおける双方向の性転換
○田中直美・大内英二 (沖縄美ら海水族館) 桑村哲生 (中京大・教養) 狩野賢司 (東京学芸大)
- P1-48 ブラインドケープフィッシュの曲がる方向を決める要因
堅田茂伸・○種田耕二 (高知大・理・自然環境)
- P1-49 シロアリと卵擬態菌核菌の相互作用 I
松浦健二 (岡山大学・院・環境)
- P1-50 シロアリと卵擬態菌核菌の相互作用 II: 菌核菌の系統解析
○矢代敏久 (岡山大学・農) 松浦健二 (岡山大学・院・環境)
- P1-51 シロアリと卵擬態菌核菌の相互作用 III: 卵サイズと卵認識の関係
○小林憲正 (岡山大学・農) 松浦健二 (岡山大学・院・環境)
- P1-52 ベクター昆虫を誘い分散させる虫媒性植物ウィルスの繁殖戦略
櫻井民人 (東北農研セ)
- P1-53 Bactrothrips brevitubus の卵塊ガード行動について
○柴田智広・土田浩治 (岐阜大・応用生物) Brenda D. Kranz (Adelaide 大)
- P1-54 腹をみせるイモリとみせないイモリ: 警告色と防御行動の二つの地理的変異の関係
持田浩治 (京大・理・動物)
- P1-55 ヤマアカガエルの産卵場所選択: ピオトープ池の場合
○森貴久 (帝京科学大・アニマルサイエンス) 中野裕介 (帝京科学大・アニマルサイエンス)
- P1-56 びっくりしたジュウシマツはどこで歌をやめるか
○鈴木研太 (理研 BSI) 関義正 (理研 BSI/千葉大) 高橋美樹 (理研 BSI) 岡ノ谷一夫 (理研 BSI/千葉大/科学技術振興事業団さきがけ 21)
- P1-57 オオミズナギドリ雛の巣立ちを決める至近要因
○出口智広 (山階鳥研)・大塚良子 (東大・医)・井上裕紀子 (北大・水産)・和田勝 (東京医歯大・教養)・岡奈理子 (山階鳥研)
- P1-58 動物装着型記録計によるオオミズナギドリの越冬・渡り生態の解明
○高橋晃周 (極地研) 越智大介・綿貫豊 (北大・水産) 出口智広・岡奈理子 (山階鳥研) Phil Trathan (British Antarctic Survey)
- P1-59 免疫能と血液寄生虫はオオヨシキリの配偶成功に影響をおよぼすか?
永田尚志 (国立環境研・生物多様性 P)
- P1-60 ハシプトガラスは鳴き声で個体弁別ができるか (I): オペラント課題による検討
○近藤紀子 (慶應義塾大学・心理) 伊澤栄一 (慶應義塾大学・心理) 渡辺茂 (慶應義塾大学・心理)
- P1-61 ハシプトガラスは鳴き声で個体弁別ができるか (II): 音響構造の解析による検討
○伊澤栄一 (慶応大学・文・心理, 日本学術振興会) 渡辺茂 (慶応大学・文・心理)
- P1-62 ワカケホンセイインコの生態と行動: 集団ねぐら〜飛来から飛び立ちまで
○池田威秀 芳聡 滝本知宏 大滝俊介 富田敏広 菊川舞 田村勇太 幸島司郎 (東京工業大・生命理工)
- P1-63 ワカケホンセイインコの生態と行動: 日中の行動と食性・営巣行動
○芳聡, 池田威秀, 田村勇太, 大滝俊介, 幸島司郎 (東京工業大・生命理工)
- P1-64 フィリピンと日本のウグイスのさえずり構造の違いと分岐年代
○濱尾章二 (国立科博・自然教育園)・Maria J. S. Veluz (National Museum of the Philippines)・西海功 (国立科博・動物研究部)
- P1-65 コロニー営巣するとつがい形成が遅れる?
○藤田剛 (東大・農・生物多様性) 樋口広芳 (東大・農・生物多様性)
- P1-66 鳥類の求愛における行動発現順序の重要性
池淵万季 (金沢工業大学・人情研)
- P1-67 メスはどんな場合に婚外交尾をすべきか?
○河野かつら 粕谷英一 三上修 大槻久 (九州大・生物)
- P1-68 アズキゾウムシにおけるメスの再交尾率に対する人為選択実験
○原野智広・宮竹貴久 (岡山大院・環境・進化生態)
- P1-69 アズキゾウムシにおける生活史形質の遺伝パラメーター
柳真一 (岡山大学環境学研究所)
- P1-70 アズキゾウムシにおけるメスの再交尾頻度とオスの射精における投資量の変化
○山根隆史 (岡山大院・環境) 宮竹貴久 (岡山大院・環境)
- P1-71 異なる飼育温度がアズキゾウムシの発育形質に及ぼす進化的影響
○寺田憲司・宮竹貴久 (岡山大院環境・進化生態)・柳真一・及川卓郎 (岡山大院自然科学)
- P1-72 ニカメイガにおけるイネ系統とマコモ系統の交尾時刻と日周活動性
○幡司梢・吉本明充 (岡山大農)・宮竹貴久 (岡山大院・環境)・吉井大志・富岡憲治・泉洋平・積木久明 (岡山大院・自然科学)
- P1-73 ウスバツバメガのメスの形態形質と産卵特性の

関係

- 小汐千春, 村司誠 (鳴門教育大・学校教育)
P1-74 アワノメイガの超音波音響交信
○中野亮・石川幸男・田付貞洋 (東大院農)・
Annemarie Surlykke・Niels Skals (南デンマー

- ク大)・高梨琢磨 (森林総研)
P1-75 スズムシの雌における期待余命と配偶者選択の
関係
○栗和田 隆・粕谷 英一 (九大・理・生態)

後半 (26 日午後～27 日午前)

- P2-1 アジアゾウ *Elephas maximus* の自己認識と数
の認知
○入江尚子 (東大・人文) 長谷川寿一 (東大・
総合文化) 佐藤隆夫 (東大・人文)
P2-2 クロサイの排泄行動: 成長・季節で違いはある
の?
○喜安 薫・幸島司郎 (東工大・生体システ
ム)
P2-3 ジュゴンの摂食生態 - 潮汐との関係 -
○竹内佑紀 (北大・環境科学)、向井宏 (北大・
北方生物圏 fsc)、Emily S. Antonio
(SPAMAST 大学)
P2-4 ハンドウイルカとベルーガの休息行動: 遊泳休
息の横周りと縦回り
○関口雄祐 (豊橋技科大・体育保健センター)
幸島司郎 (東工大・生命理工)
P2-5 イルカの前方事前探索行動
○赤松友成 (水産工学研) 王丁・王克雄 (中国
水生研) 内藤靖彦 (極地研)
P2-6 利他主義者検知は裏切り者検知とは独立して働
く
○小田亮 (名古屋工大・情報) 平石界 (東京
大・教養) 松本晶子 (沖縄大・人文)
P2-7 クロキツネザルの出産に伴う群内の変化
○角谷冴子・宗近 功 (財) 進化生物学研究
所)
P2-8 野性ミューラーテナガザルの鳴き交わり分析
○井上陽一 (西舞鶴高校)、吉田重人、岡ノ谷
一夫 (理研脳センター、千葉大自然研)
P2-9 オスの投資と配偶システムの進化に関するモデ
ル
○関元秀、若野友一郎、井原泰雄 (東京大・人
類)
P2-10 闘争行動の進化と「あいさつ」の進化
藪田慎司 (帝京科学大学 アニマルサイエンス
学科)
P2-11 同所的に生息する淡水巻貝 2 種の種間関係
○小野田剛 (鹿大院・理工) 富山清升 (鹿大・
理)
P2-12 Genetic basis and behavioral ecology of
chiral reversal in pipe snails clausiliidae

- Shithila Kasem & Takahiro Asami (Dept.
of Biol., Shinshu Univ.)
P2-13 カタツムリの交尾後受精前隔離に関する行動生
態学的研究
○森宙史・浅見崇比呂 (信州大・理・生物)
P2-14 アメリカザリガニの雄の闘争行動における体、
ハサミサイズの意味
砂川俊輔 (東京学芸大学・生物)
P2-15 キイロスズメバチの色彩に対する攻撃反応
佐山勝彦 (森林総研・北海道)
P2-16 ツチバチ類は地中でどのようにホストを見つ
けるのか?
○井上牧子・遠藤知二 (神戸女学院大・人間科
学)
P2-17 セイヨウミツバチのカースト間における
foraging 遺伝子の発現定量
○野村祥吾・加藤裕貴 (玉川大学・農) 高橋純
一・吉田忠晴 (玉川大学・ミツバチ科)・佐々
木正巳 (玉川大学・農)
P2-18 セイヨウミツバチ 次期女王育成時における血縁
選択説の検証
○小山哲史 (岐阜大院 連合獣医) 佐藤俊幸
(東京農工大 農) 小原嘉明 (東京農工大
農)
P2-19 フタモンアシナガバチのワーカー産卵における
卵の識別
○西郷隆治・土田浩治 (岐阜大・農・昆虫)・
安藤哲 (農工大 BASE)
P2-20 ミツバチのコロニー内血縁度の違いがワーカー
の女王養育行動に与える影響
○児玉佳子 (東京農工大学・農)、小山哲史 (岐
阜大学・連合獣医)、佐藤俊幸 (東京農工大学・
農)、吉田忠晴 (玉川大学・ミツバチ研)、小原
嘉明 (東京農工大学・農)
P2-21 オサムシ類の精子形態の多様性と性選択
高見泰興 (京大・理・動物生態)
P2-22 イモゾウムシ雄の条件依存的な交尾行動 ~ 昼
夜で異なるガード行動~
○熊野了州・小濱継雄 (沖縄県ミバエ対策事
業所)
P2-23 別種のホタルの発光シグナルをちゃっかり利用

- する熱帯のホタルの1種
大場信義 (横須賀市博)
- P2-24 ヨツボシケシキスイにおける大顎と後翅のトレードオフと分散距離の推定
○岡田賢祐・野村雄太・宮竹貴久 (岡大院・環境・進化生態)
- P2-25 2種マメゾウムシの種間競争：資源利用戦略と資源のサイズ
○石井弓美子 (東大院・広域)・嶋田正和 (東大院・広域)
- P2-26 アズキゾウムシにおける擬死と飛翔の遺伝相関：人為選択実験による検証
○大野竜徳 (岡大院・自然科学)、宮竹貴久 (岡大院・環境学)
- P2-27 ネムノキマメゾウムシが嫌うマメー優位競争者カメムシからの回避行動
○坂田はな (東大・広域システム) 石原道博 (大阪府大・生物) 嶋田正和 (東大・広域システム)
- P2-28 ヨツモンマメゾウムシの産卵行動：ニューラルネットモデルによる解析
○瀬戸山雅人 (東京大学・広域システム) 嶋田正和 (東京大学・広域システム)
- P2-29 雌の再交尾率は時間帯によって変化する
○桜井玄 (九大・理・生物) 粕谷英一 (九大・理・生物)
- P2-30 コクヌストモドキの擬死時間に対する人為選択が活動性に及ぼす影響
○西優輔 (岡山大・農) 片山耕次 (東洋産業) 田淵研 (中央農研) 守屋成一 (中央農研) 宮竹貴久 (岡山大院・環境)
- P2-31 カブトムシ雄の二型の適応的意義
○本郷 儀人 (京大・理・動物行動)
- P2-32 ミヤマカワトンボの精子置換：オス交尾器の部分切除の影響
○土屋香織 (首都大・理) 林 文男 (都立大・理)
- P2-33 交尾器を部分的に切除したカワトンボのオスの交尾行動
○林 文男 (都立大・理) 土屋香織 (首都大・理)
- P2-34 アオモンイトトンボの雌の色彩2型に対応した雄の日替わり探索像
○高橋佑磨・渡辺 守 (筑波大・生物科学)
- P2-35 ヒガシカワトンボの脚はなぜとれるか？
○田口正男 (津久井高定時)・細井潔 (トンボはどこまで飛ぶかフォーラム)・西村健一郎 (麻布大環境)・田口仁志 (明治大物理)・田口方紀 (上溝高科学同好会)
- P2-36 非接触警護の代替戦略：鳥による壊滅的な補食の影響
○辻宣行・椿宜高 (国立環境研・生物多様性プロジェクト)
- P2-37 ハトにおける他個体との共有による報酬の価値割引：割引率と社会的順位の関係
○伊藤正人 (大阪市大・心理)・佐伯大輔 (大阪市大・心理)・大西佑佳 (大阪市大・心理)・山口哲生 (大阪市大・心理)
- P2-38 Begging を介したツバメ雛のきょうだい間相互作用
○北村 亘、藤田 剛、樋口 広芳 (東大・院・農・生物多様性)
- P2-39 ダチョウの他個体へのつつき行動に及ぼす遊具の提示効果
○瀬尾哲也 (帯広畜産大・畜産) 岡田みずき (帯広畜産大・畜産) 三好俊三 (帯広畜産大・畜産)
- P2-40 鳴禽類成鳥の歌可塑性と歌制御核内の神経細胞新生に及ぼす聴覚遮断の影響
○渡辺愛子 (理研・脳センター・発声行動機構) Neal A. HESSLER (理研・脳センター・発声行動機構)
- P2-41 アカオオハシモズにおいて繁殖開始を促す環境要因
○浅井芝樹 (山階鳥類研究所)、水田拓 (東邦大・特別研究員)、江口和洋 (九大・生物)、山岸哲 (山階鳥類研究所)
- P2-42 リトルペンギンの雌は低音の雄に魅力を感じるか？
○宮崎正峰 (Waikato Univ. NZ) Joseph R. Waas (Waikato Univ. NZ)
- P2-43 コシジロキンバラ (馬太鞍群) の歌の個体差
○香川紘子 1・高橋美樹 1・水田拓 2・山田裕子 3・Ruey-Shing LIN 4・岡ノ谷一夫 1,3,5 (1, 理研 BSI、2, 東邦大、3, 千葉大、4, Taiwan Endemic Species Research Institute、5, JST)
- P2-44 ケリにおける集団防衛行動について
○高橋雅雄・大河原恭祐 (金沢大学自然科学研究科生物学科)
- P2-45 インドクジャクの配偶者選択における求愛音声の重要性
○高橋麻理子 (東京大学・総合文化) 長谷川真理子 (早稲田大学・政経) 長谷川寿一 (東京大学・総合文化)
- P2-46 ジュウシマツ歌学習にみられる分節化：複数の歌師匠がいる場合
○高橋美樹、岡ノ谷一夫 (理化学研究所 BSI 生物言語研究チーム)
- P2-47 ジュウシマツにおける卵への投資配分と発達への影響
○相馬雅代 (東大院・総文、理研・BSI)

- 長谷川寿一（東大院・総文）岡ノ谷一夫（理研・BSI）
- P2-48 海岸環境で繁殖する両生類（リュウキュウカジカガエル）の産卵場所選択
原村隆司（京都大学・動物行動）
- P2-49 ミツボシツチカメムシの栄養卵生産と幼虫給餌：親の投資間のトレードオフ？
○工藤慎一（鳴門教育大・学校教育・生物）仲平太一（北大・農・昆虫体系）
- P2-50 変わる感覚器：カメムシ成虫の複眼は生活史の段階によって異なる
○弘中満太郎・堀口弘子・針山孝彦（浜松医大・生物）
- P2-51 ベニツチカメムシにおける腸内共生細菌伝播時の行動
○細川貴弘（産総研・生物機能工学）、弘中満太郎（浜松医大・生物）、深津武馬（産総研・生物機能工学）
- P2-52 小さいな雄は成長するか？エボシガイ類における矮雄の生活史戦略の数値モデル
○山口幸 尾崎有紀 高橋智（奈良女大・人間文化） 遊佐陽一（奈良女大・生物）
- P2-53 まるまれないダンゴムシ卵保護のコスト
○鈴木誠治・二見恭子（北大院・農・生物生態学体系）
- P2-54 ゴミグモの網引っ張り行動とその採餌成功への影響
中田兼介（東京経済大）
- P2-55 マレーシア・サバ州の低地熱帯林にみられるアリ形グモの行動と形態
○遠藤知二（神戸女学院大・人間科学） 橋本佳明（兵庫県立大・自然環境科学研） 館卓司（九大・熱帯農業研） マリアッティ・モハメド（マレーシア国立サバ大）
- P2-56 サクラマスの視覚行動からの推考
長谷川英一（独さけ・ます資管セ）
- P2-57 日本に定着したブルーギルの雄の行動特性についての予備的検討
○岩田恵理、佐藤悠、山端卓祐、西槇実（いわき明星大・生命環境）
- P2-58 タナゴ類における雌のなわばり
○北島淳也（大阪教育大学）・森誠一（岐阜経済大学）
- P2-59 イシガキズメダイのオスはなぜ複数の産卵床を持つのか？
○佐川鉄平（琉球大院・海洋環境）、藤原彰子（日大・生物資源）、桑村哲生（中京大・教養）
- P2-60 グッピーにおける♀の体内での選り好み
○佐藤綾（東京学芸大・生物） 狩野賢司（東京学芸大・生物）
- P2-61 派手な♂グッピーは餌採り上手と言えるか？
狩野賢司（東京学芸大学・生物） ○新城信弥（東京学芸大学大学院・生物） 佐藤綾（東京学芸大学・生物）
- P2-62 アブラボテの繁殖行動
○田上佳子（東海タナゴ保全研究会）・北島淳也（大教大）・森誠一（岐阜経済大学）
- P2-63 イシヨウジにおける実効性比、性的役割と配偶システムの関係
○曾我部篤（愛媛大・院・理工） 柳沢康信（愛媛大・理）
- P2-64 ベタの同性間闘争における勝敗経験の影響～系統および雌雄による違い～
染谷知恵（東京学芸大学大学院・生物）
- P2-65 自然状況下で確認された diandry 魚ホンペラの「一次雄」から雌への性転換
○福井行雄・国吉久人・坂井陽一・橋本博明・具島健二（広大院・生物圏）
- P2-66 イトヨを材料とした動物行動学の教材映像を制作する試み
石田 惣（福井市自然史博物館）
- P2-67 ショウジョウバエとグッピーを用いた生物進化に関する教材開発
○粟飯原隆一（都立狛江高校）・狩野賢司（東京学芸大学・生物）
- P2-68 モンシロチョウの翅の紫外色の遺伝支配機構について
○後藤亜紀子（東京農工大学・農） 小原嘉明（東京農工大学・農） 佐藤俊幸（東京農工大学・農）
- P2-69 東アジアにおけるモンシロチョウ雌翅の紫外色の進化
○小原嘉明・小澤岳・深野祐也・廣田忠雄・佐藤俊幸（東京農工大・農）
- P2-70 ツマキチョウの産卵選択
稲森啓太（京都大学・生物）
- P2-71 ナミアゲハの雌における再交尾時の注入精包量と精子置換
○小林泰平（筑波大・環境科学） 渡辺 守（筑波大・生物）
- P2-72 ヤスデにおける交尾器の鍵と鍵穴
○田辺 力（徳島県博）・曾田貞滋（京大・院理・動物生態）
- P2-73 アリの細胞内に寄生する 2 本鎖 RNA の繁殖戦略
○佐藤俊幸、諸熊直、藤原一孝、*廣田忠雄、森山裕充、福原敏行、小原嘉明（東京農工大・農）、*国際基督教大学・生物）
- P2-74 アミアリにおける集合性とコロニー内遺伝構成の関係
○西出 雄大、佐藤 俊幸、平岡 毅、岩淵 喜久男、小原 嘉明（東京農工大・農）

ビデオセッション

11月26日(土) 9:00-11:50

N-220 教室

番号及び

開始時間

V-1 行動学における精子研究への microfluidic device の応用可能性

9:00 ○小山幸子 (Indiana Univ., Dept. Chem.)
D Amarie (Indiana Univ., Dept. Physics)
H Soini (Indiana Univ., Dept. Chem) M V
Novotny (Indiana Univ., Dept. Chem.) S
C Jacobson (Indiana Univ., Dept. Chem.)

V-2 「あ」の行動学 -応答詞「あ」は相互行為
でどのように用いられるか-

9:15 ○細馬宏通 (滋賀県立大学・人間文化)

V-3 コウモリダングゴの機能-保温それともメイト
ガード?

9:30 ○杉田典正 (立教大院・理・生命理学) 稲葉
慎 (小笠原自然文化研究所) 上田恵介 (立教
大・理)

V-4 ホヤに産卵するクダヤガラの子の戦略は?
交尾するための♂の戦略は?

9:45 ○赤川 泉・八谷耕平・佐藤祥三 (東海大・
海洋)

V-5 サンゴ礁復活の鍵をにぎるブダイ類の摂餌行
動と繁殖行動

10:00 ○桑村哲生 (中京大・教養) 玉井玲子 (琉球
大院・海洋自然) 酒井一彦 (琉球 大・瀬底
実験所) 中嶋康裕 (日本大・経済)

V-6 イトヨにおける求愛行動進化の遺伝学的解析

10:15 ○北野潤 (フレッドハッチ癌研究センター)
森誠一 (岐阜経済大学) Catherine L.
Peichel (フレッドハッチ癌研究センター)

番号及び

開始時間

V-7 昆虫の消化管に寄生するノコギリハリバエは
どうやって呼吸するのか?

10:35 ○一木良子 (JIRCAS)・中原雄一 (農生研)・
中村 達 (JIRCAS)

V-8 カブトムシの雌に引き起こされる雄の交尾行
動

10:50 ○阿部広明 (東京農工大学・農) 藤井 告
(東京農工大学・農) 佐藤俊幸 (東京農工大
学・農) 岩淵喜久男 (東京農工大学・農) 小
原嘉明 (東京農工大学・農)

V-9 ミツバチ女王蜂と雄蜂の空中の特定な交尾空
間「雄蜂の集合場所」

11:05 吉田忠晴 (玉川大・ミツバチ科学)

V-10 騙しているのは数?—ジュウイチの雛による
宿主操作—

11:20 ○田中 啓太 (立教大院・理・生命理学)・
森本 元 (立教大院・理・生命理学)・上田
恵介 (立教大・理・生命理学)

V-11 アオリイカの繁殖行動

11:35 ○大川けい子 (五所川原第一高校)、故松本
元 (理研、ブレインウェイ G)

--時間調整--

参加者名簿 (○は懇親会参加)

A

- 阿部広明 東京農工大学・農学部 V-8
 ○安部淳 東大・広域システム・生物 P1-20, P1-25
 粟飯原隆一 P2-67
 ○赤川泉 東海大海洋 V-4
 ○赤松友成 水産工学研 P2-5
 ○安藤陽子 農工大院 野生動物保護学研究室
 ○青木直哉 名大院・生命農学
 浅井芝樹 (財)山階鳥類研究所 P2-41
 浅見崇比呂 信州大・理・生物 P1-37, P2-12, P2-13
 ○安房田智司 琉大院・理工・COE P1-39
 ○綾部慈子 基礎生物学研究所・理論生物

D

- 出口智広 山階鳥研 P1-57

E

- 遠藤知二 神戸女学院大学・環境バイオサイエンス P2-16, P2-55
 ○圓戸恭子 アクア・トトぎふ
 ○江副日出夫 大阪府立大学・理・生物

F

- 藤田剛 東京大学・農・生物多様性科学研究室 P1-65, P2-38
 ○藤田治 広大・生物圏
 藤原彰子 日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科 P2-59
 ○藤原学 九州大学大学院理学研究院 シンポジウム
 福井亘 栃木・子ども科学館
 ○福井行雄 広島大学・院・生物圏科学 P2-65
 布施名利子 九州大学・生物 P1-34

G

- 後藤亜紀子 東京農工大学・農 P-68

H

- 箱山洋 中央水研・東京海洋大 P1-40
 ○濱尾章二 国立科博・自然教育園 P1-64
 ○浜島健二郎 株式会社 ハート
 ○原村隆司 京大・理 P2-48
 ○原野智広 岡山大院・環境・進化生態 P1-68
 長谷川英一 さけ・ます資管セ P2-56
 ○長谷川寿一 東大院・総合文化 P1-30, P1-33, P2-1, P2-45, P2-47, R-2

- 橋口陽子 東大海洋研
 ○幡司梢 岡山大学農学部総合農業科学科 P1-72
 ○林文男 都立大・理 P1-36, P2-32, P2-33
 ○林進 鹿大・教育
 逸見泰久 熊本大・沿岸域センター
 ○広木真達 国際基督教大・生物 P1-17
 弘中満太郎 浜松医科大学・生物 P2-50, P2-51
 ○廣田忠雄 ICU・理・生物 P1-15, P1-19, P2-69, P2-73
 ○本郷儀人 京大・理・動物行動 P2-31
 ○細将貴 京都大学・理・動物生態 P1-37
 ○細川貴弘 産総研・生物機能工学 P2-51
 ○細馬宏通 滋賀県立大 V-2
 保崎有香 早稲田大学・教育 P1-7

I

- 一木良子 JIRCAS V-7
 ○池淵万季 金沢工業大学・人情研 P1-66
 池田威秀 東京工業大学・生命理工 P1-62, P1-63
 ○池田謙 琉球大学・理 P1-1, P1-3
 今福道夫 京大・理・動物 P1-18
 ○稲森啓太 京都大学・生物 P2-70
 井上牧子 神戸女学院大学・人間科学 P2-16
 井上陽一 西舞鶴高校 P2-8
 入江尚子 東京大学・人文 P1-33, P2-1
 ○石田惣 福井市自然史博物館 P2-66
 石井学
 ○石井弓美子 東大院・広域システム P2-55
 ○伊藤正人 大阪市大心理 P2-37
 岩田恵理 いわき明星大学・生命環境 P2-57
 ○伊澤栄一 慶応大学・文・心理 P1-60, P1-61

K

- 角谷冴子 進化研・東農大 P2-7
 ○香川紘子 理化学研究所 BSI 生物言語研究チーム P2-43
 ○上村佳孝 北大院・農・動物生態 P1-20, P1-25
 ○金子奈都美 琉球大院・理工・海洋環境 P1-1
 金森朝子 東京工業大学・生命理工 P1-31
 ○狩野賢司 東京学芸大学・生物 P1-42, P1-47, P2-60, P2-61, P2-67
 Shithila Kasem 信州大・理・生物 P2-12
 ○川崎建次郎 生物研
 川瀬裕司 千葉中央・海博
 ○粕谷英一 九大・理・生物 P1-26, P1-34,

- P1-67, P1-75, P2-29
- 加藤義臣 国際基督教大・生物 P1-17
- 河合佐知子 文一総合出版出版編集部
- 河野かつら 九大・理・生物 P1-67
- 古賀庸憲 和歌山大学・教育
- 加川尚 近畿大学・理工・生命 P1-44
- 北川恵美 心身障害児総合医療療育センター
- 北島淳也 大教大 P2-58, P2-62
- 北島幸恵 東大・院・農
- 北村巨 東大・農・生物多様性 P2-38
- 喜安薫 東京工業大学・生命理工・生体システム P2-2
- 小林憲正 岡山大学農学部総合農業科学科 P1-51
- 小林泰平 筑波大学 環境科学 P2-72
- 香田康年 吉備国際大学・保健科学部
- 児玉佳子 農工大・農 P2-20
- 児玉雅章 葛西臨海水族園
- 近藤紀子 慶應義塾大学・心理 P1-60
- 小汐千春 鳴門教育大学・学校教育 P1-73
- 小山幸子 Indiana Univ., Dept. Chem. V-1
- 小山哲史 岐阜大学・連合獣医学 P2-18, P2-20
- 北野潤 フレッドハッチ研究所 V-6
- 工藤慎一 鳴門教育大・学校教育・生物 P2-49
- 熊野了州 沖縄県ミバエ対策事業所 P2-22
- 倉内洋平 筑波大学大学院 環境科学研究科 保全生態学研究室
- 栗和田隆 九大・理・生態 P1-75
- 久世濃子 東京工業大学・生命理工
- 川口利奈 筑波大学・生命環境科学 P1-23
- 桑村哲生 中京大教養 P1-41, P1-46, P1-47, P2-59, V-5
- M
- 松井綾香 琉球大学・理 P1-2
- 松浦健二 岡大・環境・昆虫生態 P1-49, P1-50, P1-51
- 松原始 京都大学理学研究科 動物学教室 動物行動学研究室
- 松原和也 佐賀大学農学部・システム生態学 P1-5
- 松原由加里 岡山大学・昆虫生態 P1-14
- 松村幸一 東大院・総合文化
- 三上修 九州大・理・生物 P1-67
- 宮野伸也 千葉県立中央博物館 P1-24
- 宮竹貴久 岡山大院・環境・進化生態 P1-11, P1-68, P1-70, P1-71, P1-72, P2-24, P2-26, P2-30
- 宮崎正峰 Waikato University, Biological Sciences P2-42
- 持田浩治 京大・理・動物 P1-54
- 森宙史 信州大学・理・生物科学 P2-13
- 森貴久 帝京科学大学・アニマルサイエンス P1-55
- 森本陽 京都大学・文 P1-38
- 森尾妙子
- 松島俊也 名大・院・生命農学 (財)進化生物学研究所 P2-7
- 宗近功 北大FSセンター
- 宗原弘幸 東京農工大学・動物行動学研究室 P1-19
- 村上佐和子
- N
- 中寺由美 信州大学理学部生物科学科
- 中江環 愛媛大・院・理工 P1-43
- 中川光 中野亮 東大・院・農 P1-74
- 齋田孝晴 山梨学院大学・商 P1-45
- 永田尚志 国立環境研・生物多様性 P P1-59
- 西優輔 岡山大学農学部総合農業科学科 P2-30
- 西出雄大 東京農工大・農 P2-74
- 西川友紀子 高知大・理・自然環境
- 中秀司 農環研・導入昆虫 P1-12
- 中原史生 常盤大学・コミュニティ振興
- 中原美理 東大院・農学生命 P1-10
- 中嶋康裕 日大・経済・教養 P1-2, P1-41, V-5
- 仲島義貴 帯広畜産大学・昆虫 P1-22
- 中田兼介 東京経済大学 P2-54
- 野間口真太郎 佐賀大学・農
- 野間野史明 野村祥吾 玉川大学・農 P2-17
- 野村雄太 岡山大学農学部総合農業科学科 P2-24
- O
- 大場信義 横須賀市博 P2-23
- 小原嘉明 東京農工大学・農 P1-19, P2-18, P2-20, P2-68, P2-69, P2-73, P2-74, V-8
- 落合桂子
- 小田亮 名古屋工業大学・情報工学 P2-6
- 小川秀司 中京大学・教養 P1-28
- 大野竜徳 岡山大学大学院 自然科学研究科 P2-26
- 大田由衣 岡山大院・自然科学 P1-11
- 岡田賢祐 岡大院・環境 P2-24
- 岡ノ谷一夫 理化学研究所 P1-56, P2-8, P2-43, P2-46, P2-47, R-2
- 大川けい子 青森県 V-11

- 小野知洋 金城大・生物
 ○小野田剛 鹿児島大学大学院・理工学 P2-11
 ○大内英二 (財)海洋博覧会記念公園管理財団・魚類課 P1-47
- P
- 朴太健 北大院・水産 P1-32
- S
- 佐伯大輔 大阪市立大学・心理 P2-37
 ○佐川鉄平 琉球大学大学院・理工 P2-59
 ○西郷隆治 岐阜大学・応用生物科学 P2-19
 齋藤慈子 国立精神・神経センター 神経研 P1-33
 酒井美由季 静岡大学理学部生物地球環境科学科 4年 神経行動学研究室
- 坂井陽一 広島大学・院・生物圏科学 P2-65
 酒井嘉子 立教大・理学 P1-30
 ○坂田はな 東京大学広域システム P2-27
 ○佐倉統 東京大学 R-2
 桜井玄 九州大学・理・生物 P2-29
 ○櫻井一彦 成城大
 櫻井民人 東北農研セ P1-52
 ○鮫島由佳 東大・農 P1-9
 ○真田幸代 岡山大学院・環境・進化生態 P1-13, P1-14
 ○佐藤綾 東京学芸大学 P2-60, P2-61
 ○佐藤俊幸 農工大・農 P2-18, P2-20, P2-68, P2-69, P2-73, P2-74, V-8
 佐藤芳文 京都医短
 佐山勝彦 森林総研・北海道 P2-15
 関元秀 東京大学・生物(人類学) P2-9
 ○関さと子 琉球大学・21世紀COE研究員 P1-2
 関口雄祐 豊橋技科大・体育保健センター P2-4
 ○関家友子 大阪市大・理 P1-42
 瀬尾哲也 帯広畜産大・畜産 P2-39
 ○瀬戸山雅人 東大院・広域システム P2-28
 白鳥幸徳 宮城教育大学 P1-40
 柴田智広 岐大・昆虫 P1-53
 ○新城信弥 東京学芸大学大学院・教育学研究科・生物学コース P2-61
 ○曾我部篤 愛媛大・院・理工 P2-63
 ○相馬雅代 東大院・総文, 理研 BSI・生物言語 P2-47
 ○染谷知恵 東京学芸大学大学院・生物 P2-64
 ○杉緑 信州大学理学部生物科学科
 ○杉田典正 立教大・院・理 V-3
 角(本田) 恵理 東大院総合文化 P1-33
 ○砂川俊輔 東京学芸大学 生物学教室 狩野研究
- 室 P2-14
 筑波大・環境科学 P1-6
 理研・脳センター・生物言語 P1-56
 帝京科学大学 大学院・アニマルサイエンス P1-35
 ○鈴木美由紀
- 鈴木誠治 北大院・農・生物生態学体系学 P2-53
 ○鈴木祥平 大阪市立大学・理 P1-46
 鈴木優美 静岡大学 理学部 生物地球環境科学科 4年 神経行動学研究室
- T
- 多田諭 葛西臨海水族園
 ○田上佳子 神奈川内水試研修生 P2-62
 ○田口正男 津久井高校定時制 P2-35
 ○田島裕介 筑波大・生物学類
 ○高橋晃周 国立極地研 P1-58
 高橋麻理子 東京大学・総合文化研究科 P2-45
 高橋雅雄 金沢大学・自然科学 P2-44
 ○高橋美樹 理化学研究所 BSI 生物言語研究チーム P1-56, P2-43, P2-46
 理研 GSC シンポジウム
 高橋亮 奈良女子大学・人間文化 P2-52
 高橋智 筑波大学・生物 P2-34
 ○高橋佑磨 北海道大学・環境科学 P2-3
 竹内佑紀 早稲田大学・教育学部 P1-36
 ○武智玲奈 筑波大・生物
 ○滝若菜 徳島県博 P2-72
 ○田辺力 北大理 R-1
 田中秀二 立教大院・理・生命理学 V-10
 ○田中啓太 東京都健康安全研究センター・環境保健部・薬理研究科
 ○田中豊人 (財)海洋博覧会記念公園管理財団・魚類課 P1-47
 ○田中直美 高知大・理・自然環境 P1-48
 ○種田耕二 岡山大学環境学研究科 P1-71
 ○寺田憲司 京大・理・動物生態 P2-21
 ○高見泰興 国環研・生物 P1-7, P1-8, P1-9, P1-10, P2-36
 ○椿宣高 岐阜大学応用生物科学部昆虫生態学教室 P1-21, P1-53, P2-19
 琉大・農
 国立環境研・生物多様性プロジェクト P2-36
 樺原市昆虫館 P1-16
 新潟
 ○土田浩治 首都大・理 P2-32, P2-33
 ○土屋香織
- U
- 辻和希 日本大学 生物資源科学部 海洋生物資源科学科 P1-41
 ○辻本始 土屋泉
 ○土屋香織

梅本浄二郎

W

若林保司

渡辺愛子 理研・脳センター・発声行動機構
P2-40

○渡辺守 筑波大学・生物科学系 P1-6,
P2-34, P2-71

○綿貫豊 北大水産 R-1, P1-58

Y

○藪田慎司 帝京科学大学アニマルサイエンス学科
P1-35, P2-10

山口智恵子 京都大学・霊長類研究所 P1-27

山口幸 奈良女子大学・人間文化 P2-52

○山根隆史 岡山大学大学院 環境学研究科

P1-70

○柳真一 岡山大学環境学研究科 P1-69,
P1-71

○矢代敏久 岡山大学農学部総合農業科学科
P1-50

○安井行雄 香川大学農学部・昆虫
山肩重夫 東大・院・農学生命 P1-8
芳聡 東京工業大学・生命理工学研究科・幸
島研究室 P1-62, P1-63

○吉田重人 P2-8

○吉田忠晴 玉川大学ミツバチ科学 P2-17,
P2-20, V-9

○吉村和也 東工大・生命理工 P1-4

Z

○座馬耕一郎 京都大学・霊長研 P1-29

バス時刻表

三鷹駅方面

三鷹駅北口→国際基督教大学（3番乗り場）

時	平日	土曜	日曜
6	57		
7	03 20 37 42 47	02 17 33	02 17 33
8	02 07 17 28 36	07 23 38 55	07 23 38 55
9	05 19 42	05 29 46	05 29 46
10	42	15 30 58	15 30 58
11	05 19 38 45	12 37 55	12 37 55
12	02 07 22 45	04 38 47	04 38 47
13	05 18 45	20 29 44	20 29 44
14	05 22 27 45	06 14 38	06 14 38
15	05 17 47 58	02 16 39 53	02 16 39 53
16	05 26 33 08	14 30 36 08	14 30 36
17	17 27 36	04 22 47	04 22 47
18	04 29 50	05 25 33 41	05 25 33 41
19	04 28 36 50	01 20 28 43	01 20 28 43
20	00 16 24 41	07 25 32	07 25 32
21	07 15	05 17	05 17
22	43	43	58
23	24	24	

国際基督教大学→三鷹駅北口

時	平日	土曜	休日
6			
7	20 25 35 40 45 53 57	22 30 46 53	22 30 46 53
8	00 03 10 14 25 31 46 57	01 34 52	01 34 52
9		18 50	18 50
10	09 31	07 15 36 51	07 15 36 51
11	08 31	00 33 43	00 33 43
12	09 31 53	16 24 45 52	16 24 45 52
13	02 11 36 55	08 38 53	08 38 53
14	08 27 55	07 20 33 40 47	07 20 33 40 47
15	11 26 36 55	04 16 29 38	04 16 29 38
16	09 26 48 55	06 19 34 42	06 19 34 42
17	47	05 25 34 43	05 25 34 43
18	06 27	14 24 57	14 24 57
19	19 33 48 56	15 21 47 54	15 21 47 54
20	10 25 41 55	12 33 54	12 33 54
21	06 18 30	18 53	18 53
22			
23	03 深 44	03 深 44	20

武蔵境駅方面

武蔵境南口→国際基督教大学（2番乗り場）

時	平日	土曜	日曜
6	37	37	37
7	03 32 39	03 29 58	03 29 58
8	01 10 16 30 37 44 58	27 56	27 56
9	14 28 43 57	14 30 44 58	14 30 44 58
10	12 26 41 56	12 26 42 54	12 26 42 54
11	10 25 41 55	11 26 55	11 26 55
12	11 24 41 55	24 53	24 53
13	11 24 40 53	22 50	22 50
14	10 23 38 52	05 18 35 47	05 18 35 47
15	06 22 35 41 52	05 16 33 45	05 16 33 45
16	02 10 21 30 39 50	02 14 29 43 58	02 14 29 43 58
17	08 21 37 51	12 27 41	12 27 41
18	05 19 50	10 39	10 39
19	05 20 35 45	08 37	08 37
20	12 41	04 32	04 32
21	09 46	08 46	08 46
22	12	12	12
23			

国際基督教大学→武蔵境南口

時	平日	土曜	休日
6	25 51	25 51	25 51
7	18 47 54	17 44	17 44
8	16 23 30 44 52	13 42	13 42
9	00 14 29 43 58	00 16 30 44 58	00 16 30 44 58
10	12 27 42	12 28 40 57	12 28 40 57
11	11 27 40 57	12 27 41	12 27 41
12	10 27 40 57	10 39	10 39
13	10 26 39 56	08 36	08 36
14	09 24 38 52	04 21 33 51	04 21 33 51
15	08 21 38 48 56	02 19 31 48	02 19 31 48
16	07 16 25 36 45 54	00 15 29 44 58	00 15 29 44 58
17	07 23 37 51	13 27 42 56	13 27 42 56
18	05 19 33 51	25 54	25 54
19	06 21 35 59	23 51	23 51
20	27 56	19 51	19 51
21	29	29	29
22	0	0	0
23			

日本動物行動学会第 24 回大会

実行委員

小原嘉明（委員長）・加藤義臣・狩野賢司
佐藤俊幸・中田兼介・広木真達・廣田忠雄

大会事務局

〒181-8585

東京都三鷹市大沢 3-10-2

国際基督教大学理学科生物学教室内

TEL : 0422-33-3269

FAX : 0422-33-1449

E-mail : ethol2005@icu.ac.jp